

『今日は、富士講と大我講の違いであったな。富士山が信仰の対象になったのは、富士修験からなんじゃ。富士講は、修験道とは違うんじゃよ。修験道というのは、山岳信仰(山を神と思ひ崇拜する信仰)と仏教が融合したものなんじゃ。富士講は角行という方が開祖でな、修験道の山へ籠もって修行することを富士山限定にして様々な修行方法を考え、その考えに賛同した人が、富士講の講中なんじゃよ。』

『なるほどでまっすん。大我講と富士講は、少し違うでまっすん？角行の後、角行から数えて6代目の食行身祿(じきぎょうみろく)と言う人が、富士山七合目の鳥帽子岩で即身仏(そくしんぶつ)となったことで、富士講は爆発的に人気でたでまっすん。』

『そうなんじゃ。よく勉強しておるのう。即身仏というのは、修行したまま息絶えること、それは仏になるという考えなんじゃ。なぜ、そのような修行をしたのかというと、この世の苦しみを救いたいという尊い心からなんじゃ。誰でも出来ることではないからのう、尊敬されたんじゃよ。けれども、誰にでもできる簡単なこと、例えば、お経を読むとか、富士山に登ることによって、パワーを戴けるというように、富士講の教えを簡略化したものが大我講だったのかもしれない。』  
『難しい教えを理解出来ない人もいるでまっすん。富士山に登ることによって、厄難が去るとか、決められた場所でお経を読むという教えは、分かりやすいでまっすん。』

『先日、6月30日に、埼玉県羽生市で、「初山祭」という富士山に関係したお祭りがあると聞いて、お参りに行ってきたんじゃ。このお祭りは、羽生市ばかりではなく埼玉県内の浅間神社で行われているんじゃよ。毎年6月30日と7月1日の2日間、6月30日は開山宵祭り、富士山の山開きに合わせて行われるお祭りじゃ。この一年間に生まれた赤ちゃんが、初めて山に登り参拝する初山詣での祭りで、神前で額に御神印を押し、無病息災、無事成長を祈願するんじゃよ。わしらは午後1時30分ごろお参りしていたんじゃが、子どもを連れた夫婦が後から後からお参りに来ていたんじゃよ。地域に根付いたお祭りに感動したぞ。埼玉県に浅間神社は33カ所あるそうじゃが、富士講の盛んな頃は富士山北口本宮の御師が、お札を持って回ったんじゃよ。』

『現在富士講は衰退してしまったけれど、時代の変化に合わせて、信仰も変化しながら受け継がれているでまっすん。感動でまっすん。』

『今回は、羽生市の周辺にある富士塚にも参ってきたぞ。地元の人には忘れられてしまっているようじゃが、石碑が保存されていたぞ。東円寺の庫裡を再建したときの寄付台帳にあった、群馬県千代田町の荒木某の名前が書かれた石碑も確認することができたんじゃよ。有意義な日じゃったぞ。さて、次回は、北斗信仰について話をしようかのう。』

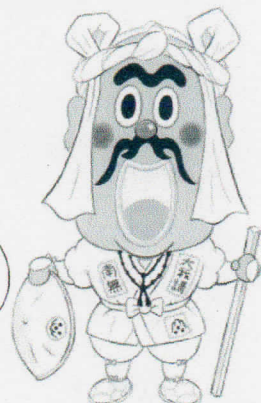


クニマッスン

出生地 忍野村

山梨県水産技術センター

口癖 でまっすん..



ふじのだいがこうざえもん  
富士大我講左衛門 年齢不詳  
職業 大我講の先達  
(先達とは案内責任者)